

主題：聖書の心臓部——ガラテヤ、エペソ、ピリピ、コロサイ

メッセージ 14

コロサイ人への手紙(2)

神のみこころ(2)

一つの目標——キリストのからだ、新しい人、神の愛する御子の王国、としての召会

聖書：コロサイ 1:13, 18, 24. 2:19. 3:10-11, 15. 4:11, 15-16

I. 神のみこころは、キリストのからだとしての召会を持つことです——コロサイ1:18, 24. 2:19:

A. キリストは、召会であるからだのかしらです——1:18:

1. 召会はキリストのからだであり、それは三一の神と彼の選ばれ贖われた者たちで構成された実体です——エペソ 1:22-23. 4:4-6。

2. からだは召会の内在的な意義です。もしからだがないなら、召会には何の意味も何の意義もなくなります——I コリント 12:12, 27. 1:2。

3. キリストはかしらであること、またわたしたちは彼のからだの肢体であることをわたしたちが認識するのは極めて重要です——コロサイ 1:18. 2:19. エペソ 4:15-16:

a. からだの中に生きることは、かしらの下で肢体たちと団体的に生きることです。

b. からだの生活をするために、わたしたちはかしらの下にいなければならない、またかしらをわたしたちの命、主体、全存在の中心としなければなりません——コロサイ 1:18. 2:19。

c. キリストのからだの中に生きる第一の原則は、かしらの権威に服従することです——エペソ 4:15:

(1). かしらに対するからだの唯一の責務は、何の意見も、アイデアも、提案も持たずに服従し、従うことです——ヨハネ 21:20-22. 使徒 13:1-4 前半。

(2). わたしたちとかしらの関係は、わたしたちとからだの他の肢体との関係です。もしわたしたちがかしらに結び付くなら、わたしたちはどんな個人や団体に対しても特別な感覚を持ったり、それらと特別な関係や交わりを持つたりすることはできません——9:10-19。

B. からだは神の増し加わりによって成長します——コロサイ 2:19:

1. からだの成長は、わたしたちの内側で神が成長すること、神が加えられること、神が増し加わるることにかかっています——エペソ 4:16。

2. 神は主観的な方法でご自身をわたしたちに与えることによって、成長を与えます——3:16-17 前半。

C. キリストの一つからだの中で、わたしたちはキリストの平安へと召されました。キリストの平安はキリストご自身です——コロサイ 3:15:

1. キリストの平安は、からだである新しい人の一です——エペソ 4:3。

2. わたしたちはからだの生活のために、キリストのからだの肢体たちとの関係の上で、キリストの平安にわたしたちの心の中のすべての事を決定させるべきです

——コロサイ 3:15。

- D. わたしたちはからだの肢体として、からだの感覚を持ち、からだに対する感覚を持つ必要があります——I コリント 12:25-26. ローマ 12:15。
- E. キリストの唯一のからだは、地方召会として多くの地方において表現されています。一地方召会は、その地方におけるキリストのからだの表現です——コロサイ 4:15-16. エペソ 4:4. 啓 1:4, 11。

II. 神のみこころは、新しい人としての召会を持つことです——コロサイ 3:10-11 :

- A. 神の意図は、ご自身を表現し代行する団体の人を持つことです——創 1:26。
- B. 新しい人としての召会は、神の意図にある団体の人です——エペソ 2:15. 4:24. 6:10-20 :
1. 召会、キリストのからだは、神の永遠の定められた御旨を完成する一人の新しい人です——2:15. 4:24. 3:9。
 2. 召会は新しい人として、キリストをそのパースンとして必要とします——コロサイ 1:18. 3:4. ガラテヤ 2:20. エペソ 3:17 前半。
- C. 一人の新しい人の実行上の出現と生活のために、わたしたちはみなキリストをわたしたちのパースンとする必要があります——17 節前半. ガラテヤ 2:20 :
1. 召会は一人の新しい人であり、この一人の新しい人には一人のパースン、すなわちキリストしかいません——コロサイ 3:10-11。
 2. 一人の新しい人のために、古い人のパースンは捨て去られなければならない、わたしたちは新しいパースンによって生きなければなりません——ローマ 6:6. ガラテヤ 2:20. エペソ 4:22, 24. 3:17 前半。

III. 神のみこころは、神の愛する御子の王国としての召会を持つことです——コロサイ 1:13. 4:11 :

- A. キリストが今日、王国においてまた王国をもってわたしたちの中で王として支配しているその王国は、神の支配であるだけでなく、神聖な命の領域でもあります——ヨハネ 3:3, 5, 15 :
1. 神の王国は、神の命をもって構成された有機体であり、神が統治するための命の領域です。その中で、神はご自身の命によって王として支配し、神聖な三一としてのご自身を神聖な命の中で表現しています——5 節. 15:1-8, 16, 26。
 2. 神の王国にはその実際があり、この実際は神聖な命の生活です——マタイ 5:3, 8, 20. 6:33. 7:21. ローマ 14:17。
- B. キリストが今日、王国においてまた王国をもってわたしたちの中で王として支配しているその王国は、神の愛する御子の王国です——コロサイ 1:12-13 :
1. 神の御子は、神聖な命の具体化また表現です。ですから、御子の王国は命の領域です——I ヨハネ 5:11-12。
 2. わたしたちが今日いる王国は、命と光と愛に満ちた領域です——1:1-2, 5, 7. 4:8, 16。
 3. 御父はわたしたちを一つの領域へと移してくださいました。その領域の中で、わたしたちは恐れの中ではなく命を伴う愛の中で支配されます。主の統治と制限の下で、わたしたちは、愛の中の、命を伴う、光の下にある真の自由を持ちます——コロサイ 1:13. マタイ 7:13-14。

4. 神の愛する御子の王国の中で、神のみこころは遂行され、わたしたちはキリストを享受し、召会生活を持ちます——啓 4:11. コロサイ 1:9, 12. 4:12。

© 2014 *Living Stream Ministry*